

先月、京都市内の小学校で子どもたちに向けての講演会をしました。「夢に向かって」というお題をいただいたことで、改めて自分自身の人生を振り返るすてきな機会となりました。



1999年12月末、芸人を引退。吉本新喜劇以外にレギュラー番組と東京での仕事もあるという順調な芸人生活だけに大きな迷いが

③ 芸人時代の学び



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

ありました。しかし、「教育者になりたい！」という夢も捨てきれず、2000年から新たな人生を送りたいと考え、1900年代最後の日を区切りとして引退することになりました。

引退のきっかけは、島田紳助さんの一言でした。

「クイズ紳助くん」という番組で、様々な職業の方に弟子入りし、その方々の仕事の苦労や喜びを体験りポートしてきた私に、「芸人を辞めて、学校の先生になりなさい」と声をかけていただきました。

関わりある全ての人に敬意を

「当時は芸人として順調、まだまだ未来がある」という気持ちが強く、「辞めたくない」とあらがっていましたが、「今まで体験したことを伝える生きた教材になり、夢を語る先生になりなさい」という言葉をいただき決断しました。

そして、最後の出演番組では、司会の島田紳助さんから引退の話

を切り出していたとき、共演した芸人仲間からのサプライズプレゼン

トが！「教員採用試験の時に使った」とネクタイをいただきました。「教師になる！」と宣言する場面もあり、引退記念番組のよう

なオンエアとなりました。そこまで売れていない若手芸人だった

にもかわらず、引退をテレビで報告させていただいたことは本当にありがたく、忘れられない「愛の詰まったすてきな時間」となりました。

そんな芸人時代を振り返り、講演会では「関わりのある全ての人

に敬意をもって接することが大切」ということを子どもたちに伝えました。



より良くなるように考えて過ごしていました。これらの結果が、たくさん愛情に包まれた今回の引退のエピソードにつながったと考えています。

振り返れば、芸人の世界はとてもしっかりとした世界でした。一番厳しかったのはあいさつで、「『おはようございます』というたった数秒の言葉で相手もこちらも幸せになる」。そう教えていただきました。

そして、「敬意を持つこと」。常識の無かった私は、数えられないほどしかられませんでした。しかし、同時に愛情も感じていたので、たくさんさんの失敗をしながらも一生懸命

引退して23年になりますが、サイエンスショーを取り入れた吉本新喜劇の舞台に実験協力者として呼んでいただいたり、芸人時代に仕事をしていたライレクターの番組に科学解説員として出演したり、今でもすてきな再会の機会がたくさんあります。「人を大切にするとちゃんと向こうも大切にしてくれる」。そう心から感じています。